急性肝不全患者の救命率

●説明

急性肝不全はもともと正常の肝臓に肝障害が生じて、症状が出てから8週間以内に肝機能が低下し、血液検査のプロトロンビン時間が40%以下になった場合に診断されます。急性肝不全に対しては、様々な内科的治療を行い、それでも改善しない場合には肝移植手術を行う場合もあります。特に意識が低下する肝性脳症が出現した昏睡型急性肝不全においては、これらの治療を行っても救命率は高くないため、様々な診療科が力を合わせて集中治療を行っています。

●計算式

$$QI = \frac{\text{急性肝不全と診断された患者数}}{\text{救命できた患者数}} \times 100$$

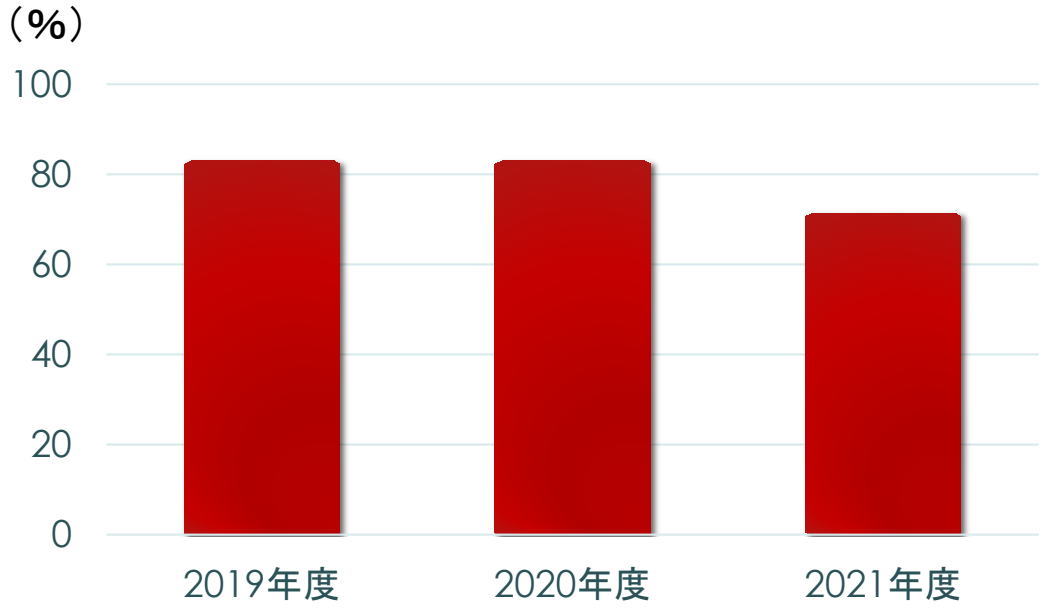
●目標

当院では、消化器内科、肝胆膵外科、麻酔科が中心となり病院全体の総力を挙げて急性肝不全に対する集学的治療を行っています。内科的治療で救命できないと判断した場合には肝移植（生体肝移植・脳死肝移植）を行い、できる限り多くの患者さんを救命できるように努めています。

●計画

各診療科が力を合わせて、様々な議論を重ねながら、最先端の医療を提供することで急性肝不全の救命率の向上に取り組んで参ります。

●実績



●評価

2019年の全国調査における急性肝不全/遅発性肝不全の救命率は約65%であり、当院の2019～2021年度までの救命率は概ね70%前後であることから、比較的良好な成績であることが示唆されます。